

／ 地域 ／

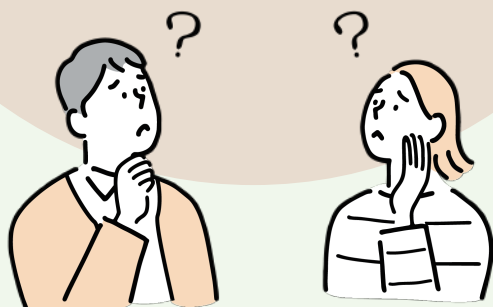
／ 学生 ／

関わり方 ガイドブック

～ここは押さえてほしい！学生と活動するときのヒント～

地域の方 向け

学生さんと活動する時は
どんなことに
気をつけたらいいの？



目次

- 01 学生の実態を知ろう！
- 02 学生と一緒に活動するときのポイント
- 03 学生に地域で活躍してもらうためには？～事前に考えておくこと～
- 05 学生団体と地域とのかかわり
- 07 実際に地域で活動している学生にインタビュー！
- 08 地域の人が地域の課題解決のために利用できる制度やプロジェクト
- 09 学生が活用している制度を紹介
- 10 まちの中にある学生の居場所

学生の実態を知ろう！

学生はどんな風に過ごしている？

東広島市に住む大学生は、県外出身者が多いことが特徴です。授業や研究、サークル、アルバイトと日頃から忙しい生活を送っています。また、就職活動や教育実習などの時期にはさらに時間が限られます。



生活の 優先事項

学生にとって学業と就職・進路は最優先。
特に3年生の秋頃から就職活動が中心となり、それ以前から多くの学生がインターンシップに参加しています。

時間の 使い方

授業や課外活動に多くの時間を費やし、空き時間にアルバイトや課題をこなしています。9割近くの学生がアルバイト経験があり、学費や生活費を賄っています。

地域活動への 関心

学生はボランティアや社会活動にも関心が高く、積極的に参加する意欲を持つ一方、学業やアルバイトとの両立を考える必要があります。

学生と一緒に活動するときのポイント

● お互いを理解する

学生と地域の方が円滑に連携するためには、立場や考え方の違いを尊重することが大切です。
活動内容や役割を明確にし、お互いに相談しながら進めましょう。

● 注意点と工夫

学生には忙しい時期（試験期間や就職活動）があります。参加しやすい時期や時間を確認し、
短期間の活動や体験の機会を提供するのがおすすめです。
活動に対するお礼や費用に関する取り決めは、学生と丁寧に相談して決めることが大切です。
交通費の支給や、活動後の交流会などお金ではないお礼も有効です。

● 活動を続けるために

学生の卒業や生活環境の変化を考え、短期間の活動を積み重ねる形で参加しやすい仕組みを
つくりましょう。また、活動の場が学生にとって学びや成長につながるよう配慮することが、関係を
長続きさせるカギです。

● 双方のメリットを意識する

学生にとって地域活動は、学業や日常生活を補完し、実践的な経験を得る貴重な機会です。
一方で地域にとっても、若い世代のエネルギーや視点を取り入れることで、新たな価値を創出する
可能性があります。

例えば、敬老会や文化祭での発表の場を提供することで、学生が日頃の研究や活動を披露し、
地域の活性化に貢献することができます。

このような活動を通じて、お互いが「ともに成長する」という意識を持ち、一体感のある取組みを
目指しましょう。

学生に地域で活躍してもらうためには？

～事前に考えておくこと～



謝礼について

- * 交通費や活動への謝礼を準備するかを明確にし、事前に伝えましょう。
- * 金銭的謝礼が難しい場合、地域の特産品や交流の場（食事会など）を用意する方法もあります。



交通手段

- * 学生が活動場所に移動する手段（公共交通機関、車、自転車など）を確認しましょう。
- * 交通費が必要か、送迎が可能かも検討します。



打ち合わせの有無

- * 活動前に打ち合わせを行うかどうか決めて、対面かオンラインも含めて学生に伝えましょう。
- * 打ち合わせの日時・場所、所要時間も具体的に提示すると予定を合わせやすいです。



具体的な依頼内容

- * 学生に期待する役割や業務内容を明確化し、箇条書きなどで分かりやすく伝えましょう。
- * 活動の目的や背景も伝え、活動への理解を深めてもらうことで学生が活動しやすくなります。



連絡手段

- * 学生とのやりとりに使用する連絡手段（メール、電話、SNSなど）を決めましょう。
- * 連絡の際に迅速な対応ができるよう、担当者を明確にしておくスムーズです。

チェックリスト

- | | |
|-----------------------------------|--------------------------------------|
| ☐ 謝礼について | ☐ 活動期間・スケジュール |
| ☐ 交通手段 | ☐ 必要な準備物 |
| ☐ 打ち合わせの有無 | ☐ 安全管理 |
| ☐ 具体的な依頼内容 | ☐ 参加の動機づけ |
| ☐ 連絡手段 | ☐ 活動後のフォローアップ |



活動期間・スケジュール

- * 活動の開始日、終了日、具体的な時間帯を明記しましょう。
- * 学生の試験期間や長期休暇を考慮し、参加しやすいタイミングを選びましょう。
- * 活動場所の詳細（住所、施設の設備、利用可能時間）を確認し、学生が安心して活動できる環境を整備しましょう。
- * 雨天時や急な変更があった場合の代替案も考えておくとう安心です。



必要な準備物

- * 活動に必要な道具や資料を地域側で用意するのか、学生に持参をお願いするのかを確認します。
- * 服装の指定（作業着、動きやすい服装など）があれば事前に伝えます。



安全管理

- * 活動中の安全を確保するための注意事項（事故対応、保険加入の有無など）を検討します。
- * 万が一の際に対応できる緊急連絡先を共有しましょう。



参加の動機づけ

- * 活動の意義や学生にとってのメリット（学びや成長、地域との交流など）を伝えることで、積極的な参加を促すことができます。



活動後のフォローアップ

- * 活動終了後に感謝の意を伝える手段（お礼のメールや手紙、記念品など）を用意します。
- * 活動のフィードバックを行い、次回の連携に活かす仕組みをつくりま。

キッチンワーカー Kitchen Worcar

どんな団体？

地元の食材を使った料理の試作や販売、ワークショップを行っています。

▶ 学生団体が地域で行ったこと

吉川文化祭に参加し、地元野菜の焼きそばや蒸しパンを販売。
アロマワックスバーづくり体験も実施。

◎ 一度きりで終わらない関係づくり

学生には得意な「食」や「体験」部分を中心に関わってもらうことで、強みを活かした連携を行っています。

売上を活動資金として活用できるようにしたり、毎年の継続を見越して連絡を取り合うなど、地域側も工夫しています。一度きりで終わらない関係づくりがポイントです。



リズムミックダンスクラブ

どんな団体？

大学のイベントや公演でダンスを披露しています。

▶ 学生団体が地域で行ったこと

中黒瀬や平岩地域で、ダンス教室を開き小学生と一緒に練習を行い、夏まつりで発表。

◎ 双方向の交流

打ち合わせの段階から幹部の学生と地域側でしっかり話し合い、企画を進めました。学生の発表会を地域の人が見に行くなど、双方向の交流が続いています。練習の日程調整などは大変ですが、関係が深まることで継続につながっています。



広島大学書道部

どんな団体？

書道作品の制作やパフォーマンスを行っています。

▶ 学生団体が地域で行ったこと

防犯ボランティア交流会で、「防犯」をテーマにしたパフォーマンスを披露。

◎ 発表の場として

普段は地域との接点が少ない団体ですが、「書道で何かできないか」と声をかけてもらい、発表の場を得ました。学生も「意味のある活動」として意欲的に参加。少人数の部なので、活動の優先順位を相談しながら関わりました。



キャンドルサークル 灯

どんな団体？

キャンドルナイトやキャンドルづくり教室の企画・運営をしています。



▶ 学生団体が地域で行ったこと

「光の宴」などで、地域の特性を生かしたキャンドル装飾を実施。

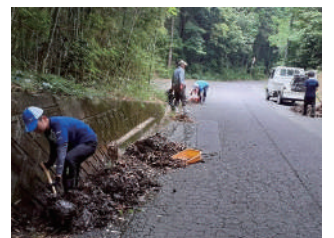
◎ 地域と一緒につくりあげるイベント

地域イベントに合わせたデザインや装飾を学生が提案し、一緒につくり上げることで盛り上がりを見せました。演出が好評でしたが、屋外イベントならではの天候や安全面への備えが必要でした。

学生ボランティア団体 OPERATIONつながり

どんな団体？

「地域部」と「災害部」の2事業部で活動している学生ボランティア団体です。



▶ 学生団体が地域で行ったこと

被災した地域で交流会に参加し、住民と遊びや料理などを通じて交流。被災農地で農地復旧活動を実施したり、災害が発生した際には、団体メンバーを派遣。

◎ 特色を活かした活動

被災した地域でのボランティア活動やつながりのある地域を作っていくために地域交流の企画などを実施しています。

「災害」「防災」をキーワードにした活動を外部機関と連携しながら行っています。

ジャック・オー・ランタン Jack-o'-Lantern

どんな団体？

マジックやジャグリングを練習し、イベントなどで披露しています。



▶ 学生団体が地域で行ったこと

子ども会や敬老会、お祭りなどに出演。

◎ 具体的な依頼事項を事前に決めておく

この団体は、ホームページに依頼する際のお願い事項が記載されています。地域側は、日程調整や交通費、謝礼のことなど、事前に具体的な依頼事項をまとめておくと、スムーズに出演の依頼を相談できます。

実際に地域で活動している学生にインタビュー！

学生が地域活動に参加する形は様々。実際に活動している学生の声を紹介します。



子ども食堂

広島大学 4年
山岡 優太さん

活動内容

子ども食堂や交流会に参加し、スタッフの方と調理をしたり地域の子どもたちと一緒に遊んだりしています。

活動頻度 月に1～2回

Q 活動のきっかけは？

せっかく地元の大学に進学したのだから、地域の"人"とつながりたい、交流したいと思ったのがきっかけです。子どもが好きなので、子どもとも関われる活動を探していた際に見つけたのが、現在参加している子ども食堂でした。

Q 継続して関わっている理由は？

継続的に関わることでスタッフの皆さんや地域の子どもの関係性が築けていき、より深い交流ができるようになることが嬉しいからです。何より、そこに集まる皆さんの温かさに触れ、自分の安心できる居場所になっています。



フードバンク

広島大学 3年
加登 彩香さん

活動内容

フードバンク開設時の運営ボランティアとして、食料品の補充、提供食品の検品確認、在庫確認などを行っています。

活動頻度 2～3か月に1回程度

Q 活動のきっかけは？

フードバンクを担当していた学生スタッフの方から誘ってもらったことがきっかけです。活動にも興味があったことからボランティアを始めました。

Q 活動を通して学んだことは？

ボランティアの方をはじめ、子ども食堂の方や行政の方ともお話する機会があり、今の悩みや課題、やりがいなど現場の生の声を直接聞けるので勉強になっています。

地域の人が地域の課題解決のために 利用できる制度やプロジェクト

地域の元気応援プロジェクト

(広島大学)

広島大学では、地域社会との連携を深めるため、「地域の元気応援プロジェクト」を展開しています。この取り組みでは、地域団体からの提案をもとに、学生や教員が地域課題の解決に向けて協働しています。学生にとっては、大学での学びを活かしながら地域に貢献できる貴重な機会であり、地域の方々にとっても、新たな視点や若い力を取り入れる機会となっています。

【過去の実践例】

- ・地域行事のサポート
- ・特産品のPR
- ・観光資源の発掘
- ・防災や福祉に関する調査活動 など



詳細は
こちら



コモン COMMONプロジェクト

(東広島市 経営戦略チーム)

「コモンプロジェクト」は、大学と東広島市が力を合わせて取り組んでいる活動です。地域で困っていることや、もっと良くしたいことについて、大学の先生や学生と一緒に考え研究し、担当課と共に、解決を目指します。学生にとっては、教室の外で地域のことを学ぶ良い機会ですし、地域の方々にとっても、若い人の力や新しい考えを取り入れるチャンスになります。大学と地域が一緒に知恵を出し合い、よりよい東広島をつくっていく、そんな取り組みです。

【過去の実践例】

- ・学生と地域住民がつながり、産学官民でまちづくりを実施
- ・プレフレイルの高齢者の生活習慣の改善 など



詳細は
こちら



学生協働支援隊

(東広島市 地域づくり推進課 または 東広島市市民協働センター)

「学生協働支援隊」は、まちづくりに対する関心や意欲が高い学生を対象に構成されており、地域課題の解決に向けて共に考え、学生の視点や力を活かすこと、学びを地域に還元することを目的に取り組んでいます。

■ 支援メニュー

①団体内の合意形成の支援

②事業の企画・試行

③事前のヒアリング等により企画を検討

■ 支援期間：短期間（3か月程度）

■ 住民自治協議会向けには、スマホ講座、自治会マップ作成、防災キャンプ運営支援などを行っています。

合意形成

学生がファシリテーターとして、地域の会議や話し合いに参加し、住民の意見を引き出したり、考えを整理して伝えやすくしたりすることで、合意形成をサポートしています。

※ファシリテーターとは、会議や研修で参加者を目標達成に導く進行役のこと。



スマホ講座

学生が講師となり、地域の方々にスマートフォンを使い方をわかりやすく教える講座です。操作方法を教えるだけでなく、地域の方との交流や学生の活躍できる場を提供しています。



詳細はこちら



学生が活用している制度を紹介

学生ローカルパートナー制度

(学園都市づくり交流会議)

学園都市づくり交流会議とパートナー関係になり、積極的に地域に関わり、活動を行う学生団体向けの制度です。

パートナー団体には、学園都市づくり交流会議のコーディネーターが伴走支援を行うとともに、学園都市づくり交流会議が主催する講座等でチームビルディングや地域との関わり方などのスキルを学ぶことができます。



詳細はこちら



東広島市・学生発スタートアップチャレンジ (一般社団法人ひろしま好きじゃけんコンソーシアム)

広島大学・近畿大学工学部・広島国際大学の大学生及び大学院生に芽生えた、自由に創造的なアイデアを具現化するためのプログラムです。

審査を経て採択された約10チームの学生たちは、助成金と専門家の伴走支援を受けながらアイデアの実証活動をし、成果発表会にて活動を報告します。

< 助成金額 > 1採択あたり上限30万円



詳細はこちら



学生チャレンジ活動応援補助金

(学園都市づくり交流会議)

東広島市内の大学に通う学生が、地域でさまざまな活動を行う際に、その費用を支援する制度です。例えば、地域の方々との交流イベントや、まちの魅力を発信する取り組みなどが対象となります。学生たちは、自分たちで企画を考え、地域の中で実際に行動します。このような活動を通じて、学生は地域のことを深く学び、地域の皆さんにとっても、若い力や新しいアイデアを取り入れる良い機会となります。

< 補助金額限度 > 5万円／件 < 応募期間 > 随時



詳細はこちら



ドリームチャレンジ賞

(広島大学校友会)

広島大学校友会では、学生の自主的な学びや社会貢献活動を支援するため、「ドリームチャレンジ賞」という制度を設けています。この賞は、学術・文化・スポーツなどの分野で、学生が自ら企画・実行する活動に対して、活動資金を助成するものです。

< 補助金額 > 1採択あたり5万～50万円助成



詳細はこちら



まちの中にある学生の居場所

東広島市内には学生の居場所として誕生した施設があるのをご存知ですか？
学生だけでなく地域の人でも訪れることができたり、利用することができたりします。
ここに行けば学生と交流するきっかけが生まれるかもしれません。

Tamariba.

「Tamariba.」はオープンスペース、DIYスペース、個室があり、登録すれば大学生なら誰でも無料で利用できる施設です。オープンスペースは予約不要。DIYスペースと個室は予約制です。一般の人、有料で利用可能となっています。



(株)KAKERU Tamariba.下見キャンパス
東広島市西条町下見4409-2

【開館時間】10:00～18:00
【閉館日】土・日（利用の希望があれば調整可）

詳細はこちら



喫茶ぱいぷ

東広島市西条下見の三ツ城地域センター敷地内にある「喫茶ぱいぷ」は、学生も地域の人にも気軽に立ち寄れる喫茶スペースです。

喫茶営業がベースですが、地域の人や学生がランチを提供したり、学生が店に立ったり、喫茶利用だけでなく、地域の人や学生が関わるイベントも開催しています。

イベントスペースとしての貸し出しもしています。



喫茶ぱいぷ

東広島市西条下見5丁目4-8
(三ツ城地域センター敷地内)

【営業時間】月～金（祝日除く）10:00～18:00

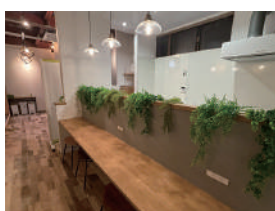
詳細はこちら



楽屋プレイス

2025年3月にオープンした「楽屋プレイス」は、子どもから大人までが自由に集まれる地域の複合交流拠点です。1階はシェアリビングにカフェバーを併設しています。

学生が一日限定のチャレンジカフェを開いたり、縁日などのイベントを企画したり・・・やってみたいことがあれば、スタッフと相談しながら形にすることができる場所でもあります。



楽屋プレイス (GAKUYA PLACE)

東広島市高屋町杵原1334-18

詳細はこちら



急な閉館や営業時間の変更がある場合があります。それぞれの場所の利用については、事前にホームページやSNS等をご確認ください。

まずは、活動をサポートしてくれるコーディネーターに相談してみましょう。

＼ ご相談・お問合せはこちら ／

東広島市市民協働センター

082-422-1036

東広島市西条栄町8番29号
東広島市役所北館1階

学園都市づくり交流会議

082-420-0917

【事務局】

東広島市西条栄町8番29号
東広島市役所本館5階
経営戦略チーム

<https://www.gakuentoshi-higashihiroshima.jp/>



「学園都市づくり交流会議」とは？

「学園都市づくり交流会議」は、大学と地域との交流を通じて相互理解と親睦を深めることで大学の地域への定着を促進し、学園都市づくりに寄与するため、東広島市と大学等が連携して設置した機関です。学生の皆さんが地域のことを知り、関心を持つきっかけとなる「地域体験ツアー」や、地域と関わりながら自らの企画を実践するまでの取組みを支援する「ひがしひろしま学生×地域塾」などの学生と地域の交流・連携に関する事業の開催や、それらの情報発信を行っています。